

小・中連携の在り方について

1 研究主題

主体的に学び、心身ともにたくましい児童生徒の育成
～円滑な接続のための小・中連携の在り方～



小中の連続的な生徒指導・学習指導について

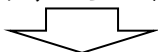
- ・ 心身ともにたくましい→ストレスや困難に負けない→レジリエンスの育成（折れないしなやかな心と元気な体）
- ・ 円滑な接続→小中9年間を意識した連続的な取組（生徒指導・学習指導・家庭学習等）

2 小・中連携のポイント

- (1) 中1ギャップの解消
- (2) 連続した9年間を意識した取組（学びの連続性，指導の連続性）
- (3) 共通実践事項による取組状況の確認

3 中学校生活への不安の解消

- ・ 環境の変化（学級担任制から教科担任制へ，学習と部活との両立，複数の学校から進学等）
- ・ 学校文化や指導方法の差（「小学生は小学生らしく，中学生は中学生らしく」，学習の速度）



実践例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 入学説明会前にアンケートを実施し，事前把握することにより不安の解消を図る。 ○ 指導計画を見直し，中学入学当初は小学校の学習内容や教材を取り入れる。4月の授業速度を緩やかにする。 ○ 小・中連絡会や小・中連携研修会等での入念な情報交換を行う。（小学校→中学校）
-----	--

4 9年間を通じた学びや指導の連続性

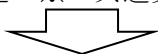
- ・ 中学校での円滑な学びのための取組
- ・ 学力検査等から見られる課題を改善するための校内研修との関連 ※共通実践を検討
- ・ 合同体験する場の設定（一緒にできなくてもネット回線を使った交流も可能）
- ・ 特別な指導を要する児童の把握（指導経過・変容）



実践例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 算数・外国語等の教科で中学校教諭による小学校への乗り入れ授業を実施する。 ○ 小中で同様の内容のテーマを設定することにより，授業参観を小中同じ視点で実施する。 ○ 運動会や文化祭などの合同の行事，あいさつ運動などの合同の取組を設定する。 ○ 小・中連携研修会や小・中連絡会，合同特別支援研修会等に位置づけて複数年で把握する。
-----	---

5 家庭との連携による指導の連続性

- ・ 小中通した家庭学習の習慣化，自主化の確立と家庭学習の手引きの効果的な活用
- ・ メディア取扱いの家庭内ルールの設定 ※ 共通実践を検討



実践例	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小中連携研修会等で各校の家庭学習の手引きを持ち寄り，系統性を持つように見直す。 ○ 年度初めにPTAと連携した取組としてメディアルールを設定を位置づける。（中学校のテスト期間に合わせた小中一斉実施のノーメディアデー等の設定も考えられる。）
-----	--